



Title	薬学専門教育の支援を目的とした授業ホームページの活用
Author(s)	西田, 孝洋; 中村, 純三
Citation	日本薬学会第126年会, 講演要旨集3, P29[Q]am-021, p.214, 仙台 (2006)
Issue Date	2006-03
URL	http://hdl.handle.net/10069/6687
Right	Copyright(c) 日本薬学会

This document is downloaded at: 2019-06-15T21:34:10Z

薬学専門教育の支援を目的とした授業ホームページの活用

【目的】近年のインターネットの普及は目覚ましく、電子ファイル化が進んでいる授業コンテンツ（講義ノート、プレゼンテーション、各種課題など）の配信や学生とのコミュニケーションの場として、授業ホームページ（HP）は薬学専門教育において重要な役割を果たすものと考えられる。一方、授業 HP によって予習・復習を支援することで、学生のやる気を引き出し、自主的な学習態度を形成できると期待できる。そこで、授業コンテンツ、コミュニケーション、ドリル演習に着目した授業 HP (<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/dds/class/yaku3/index.html>) を開設し、その有用性を評価した。

【方法】長崎大学薬学部 3 年生選択科目「薬剤学 3」（内容：DDS、薬物相互作用、臨床薬物速度論、体内動態変動）について授業 HP を開設した。トップページには、携帯用 HP を兼ねた更新情報を配置し、シラバス、コース概要、参考図書・HP リンク、掲示板、授業コンテンツなどの項目をインデックスとした。さらに、学生とのコミュニケーションには、授業メーリングリスト（ML）も活用した。授業 HP の有用性の評価は、アクセス数や学生に対する授業アンケートなどで行った。

【結果・考察】アンケートの結果、授業 HP を有効に活用できたと回答した学生の割合は非常に高かった。特に、授業コンテンツページやドリル演習へのアクセス数が多く、課題や定期試験の対策・復習を支援できたと思われる。さらに、ゲーム感覚で取り組めるドリル演習は、現代の学生にマッチした勉強方法であると考えられる。また、ML や掲示板による質問回答・情報提供も有効であった。したがって、ドリル演習やコミュニケーションなどに配慮した授業 HP を基盤として、薬学専門教育における e ラーニング導入の進展が期待できる。